

やまほん

余 レポート No.35

株式会社 神清

実態調査事例⑩20年前の瓦屋根について

あまり知られていない屋根の実態に迫ります。
20年前の瓦屋根について、具体的な写真をもとに報告します。

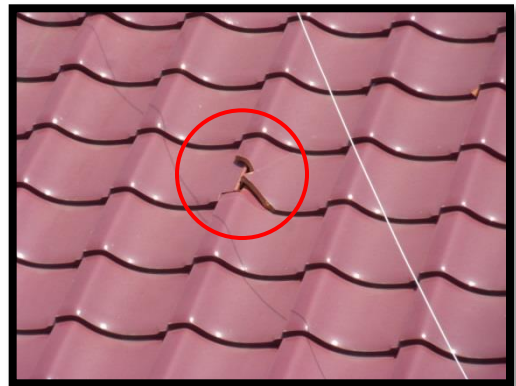


↑上写真は、築20年、粘土瓦屋根を設置した現場です。場所は愛知県です。
粘土瓦は引っ掛け葺きでJ形陶器瓦でした。建物の外壁と比べると、瓦はきれいな状態を保っています。
しかし、実際に調査すると、一部メンテナンスが必要な所もありましたので、ご報告いたします。



←左写真の部分では、棟部冠瓦下の、のし瓦が1カ所脱落していました。しかし、雨漏りは発生していませんでした。

→右写真は、アンテナ下の棧瓦が踏み割れと
考えられる破損をしていたところでした。屋根に上
がる作業者が屋根専門業者でないと、このよう
な踏み割れを起こす危険が高まります。



←左写真は、アンテナの土台です。
アンテナの土台幅と棟瓦の寸法が合っていないため、
瓦を無理やり押し下げて設置してありました。屋根や
瓦の構造を把握していない作業者が設置したよう
ですが、こういった方法は破損や雨漏りの原因になりま
すので、設置方法の検討が必要です。

やまほん

余レポート No.35

余株式会社 神清



←左写真は、瓦を剥がしたときの下地です。引掛けはステンレス製スクリーナで留め付けてありました。瓦は非防災瓦でした。3列に1段、ステンレス製スクリーナで留め付けてありました。瓦は乾燥していて、健全でした。下葺き材は表面に薄くホコリが堆積していました。縦桟は、ルーフトープ(樹脂製)が施工してありました。



→右写真は、縦桟(ルーフトープ)部のアップです。ルーフトープ部分は隙間があり、排水可能となっています。機能健全な状態です。

瓦を留めている釘頭は錆びています。しかし、釘廻りの瓦に、水染み痕や腐朽は見られませんでした。金属屋根と違って、釘による結露は発生していません。



←左写真は、下葺き材の破れ部です。瓦施工時の踏み抜きと思われます。

→右写真は下葺き材をめくり野地板を確認した所です。野地板は9mmのバラ板でした。下葺き材の破れは、ちょうどバラ板の隙間に関係があるように思われました。このような状態でも、雨漏りは発生していませんでした。

